栃幼時報

題字／栃木県知事　福田富一 氏

第126号

平成28年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／伊沢　信恭　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ http://www.youchien.or.jp

第63回 栃木県幼稚園教育研究大会

平成二十八年七月二十八日から二十九日、栃木県総合文化センターと宇都宮市内各会場において、教育研究大会が開催された。

今年の大会テーマは「人生のスタートにこそ良質な教育を」～乳幼児期の育ちを支える保育者であり続けるために～で、県内の千三百名を超える先生方が集まった。

開会式

■主催者挨拶（要約）

栃幼連理事長　石嶋　勇

子ども・子育て支援新制度がスタートし一年と数か月が経過いたしました。

昨年のような混乱は収まりつつあるようですが、今後も私学助成を受ける園・新制度に移行した（移行しようとしている）園すべてに平等に国から公費を給付していただき、人間形成に最も重要な幼児教育及び保育に国家をあげて力を注いでいただきたいと願っております。

また、市町の格差が生じないように要望してまいりますので皆さんの力強いご支援をお願いいたします。

■来賓祝辞

ご来賓の栃木県知事福田富一様、栃木県議会副議長早川尚秀様、宇都宮市長佐藤栄一様から祝辞をいただいた。

■表彰

●栃幼連　幼稚園教育功労者表彰

幼稚園教育振興功労者（敬称略）

小瀬昭一
（認定こども園茂木愛泉幼稚園）

幼稚園教育研究功労者（敬称略）

浅見容子
（ふたば幼稚園）

●栃幼連　永年勤続表彰

五十年表彰一名、四十年表彰二名、三十年表彰七名、二十年表彰二十五名、十年表彰六十八名

御礼

県大会当日、皆様より募りました「平成23年東日本大震災」と「平成28年熊本地震」の義援金にご協力をいただきましたこと、心より感謝もうしあげます。

総額 106,258円

講演会

「子どもの心を強くする保育のポイント」

筑波大学医学医療系教授　**徳田 克己 氏**

〈参加者の声〉
- 現代の保護者の傾向・思考を踏まえながら、子どもの心を強くするには私たちがどのような保育をすれば良いかを学ぶことができた。
- 「うなずく」ということは小さな行動だが、子どもに大きな影響を与えているのだと学ぶことができた。
- 自己肯定感「やってもいいんだ。挑戦してみよう！」と心の援助の大切さを学ぶことができた。

公演会

「ハッピートーク&ライブ　みんなが主役人生に夢と感動と絆を」

音楽活動家　**松尾 貴臣 氏**

〈参加者の声〉
- 自分のやりたいことを継続していくことの大切さ、そのなかで続けて得たものを聞くことができた。
- 家族や命の関わりについて、歌を通して考えさせられる公演になった。
- 夢に向かって活動している姿、歌のメロディー・歌詞に心打たれ感動しました。

自然科学の不思議、発見（49名）

助言者　桂木　奈巳（宇都宮共和大学・准教授）
コーディネーター　大中　清見（法得幼稚園・園長）

参加者の声
疑問に思ったことを、子どもたちと共に探求することが大切だと感じた。

3分科会

仲間との関わりの中で育む主体性（93名）

助言者　日吉佳代子（宇都宮共和大学・教授）
コーディネーター　加藤みどり（真岡さくら幼稚園・園長）

参加者の声
子どもとの信頼関係を大切にしながら、子どもの思いや意見を受け止め、言葉を発信出来たことを褒めて、意欲に繋げていけるようにしたい。

4分科会

乳幼児の発達と心のケアを考える（49名）

助言者　鈴木　由美（聖徳大学・教授）
コーディネーター　佐々木桐子（萌丘幼稚園認定こども園・園長）

参加者の声
危ないからさせないのではなく、危ないから教えてあげる。そして子どもたちがいつものびのびいられる保育者でありたい。

5分科会

満3歳児・2歳児の発達とあそび（68名）

助言者　守　巧（東京家政大学・講師）
コーディネーター　田名網優子（明星幼稚園・教諭）

参加者の声
子どもにあわせ、ゆとりある「待つ保育」を心がけたい。

6分科会

特別支援教育における保護者との連携 ～ 保護者の気持ちに寄り添うとは ～（82名）

助言者　鈴木　智恵（栃木県立盲学校・教諭／前 幼児教育センター・副主幹）
コーディネーター　岡本　純世（認定こども園すみれ幼稚園・園長）

参加者の声
担任一人ではなく、園全体で取り組むことの大切さを学んだ。

7分科会

第63回 栃木県幼稚園教育研究大会 2日目

県内の半数近くが認定こども園に移行したことを受け、幼児だけではなく乳児の視点からも保育を考える必要があることから、18の分科会に分かれて研修にあたった。
各分科会の話題提起者と会場は下記の通り。

●保育内容研究部門

分科会	話題提起者	会　場
1	川辺　綾香（国谷幼稚園・教諭） 岸本　純子（幼保連携型認定こども園バンビ幼稚園・保育教諭）	コンセーレ
2	森　清香（認定こども園黒磯幼稚園・保育教諭） 月江　智晶（虹ヶ丘認定こども園・保育教諭）	二荒山会館
3	増淵ゆかり（認定こども園のぶしま幼稚園・保育教諭） 福永　薫（認定こども園野木幼稚園・保育教諭）	県総合文化センター
4	降矢　祥子（真岡杉の子幼稚園・教諭） 加藤　純子（にしだ幼稚園・教諭）	県総合文化センター
5		県総合文化センター
6	渡辺　梓彩（洗心幼稚園認定こども園・保育教諭） 川島　結香（佐野みのり幼稚園・教諭）	ホテルニューイタヤ
7	中山　早苗（氏家幼稚園・教諭） 田城いくよ（認定こども園すみれ幼稚園・主幹教諭）	コンセーレ
8	岡田　幸枝（認定こども園足利幼稚園・主幹教諭） 橋本　啓子（認定こども園友愛幼稚園・主幹教諭）	県総合文化センター
9	中山　昌樹（認定こども園あかみ幼稚園・園長） 荒井　哲郎（赤見小学校・校長） 山口　猛雄（佐野市教育委員会・指導係長）	ホテルニューイタヤ

●講座部門

分科会	会　場
10	ニューみくら
11	コンセーレ
12	コンセーレ
13	二荒山会館
14	県総合文化センター
15	二荒山会館
16	認定しらゆりこども園

●免許更新、新採研

分科会	会　場
17	作新学院幼稚園
18	栃木県総合教育センター

音楽表現を通して子どもの心を育む（95名）

助言者　朝日　公哉（玉川大学・助教）
コーディネーター　大久保智子（やすづか幼稚園・副園長）

参加者の声
保育者自身が楽しむ事が、まず一番!感性豊かに保育者が取り組むことによって感性豊かな子どもが育つのだと感じた。

1分科会

保育者のメンタルヘルス（60名）

助言者　浪間　亮（株式会社ヒューマン・リスペクト・インストラクター）
コーディネーター　栗田　英子（認定こども園黒羽幼稚園・園長）

参加者の声
マインドマップ作成やグループ協議等、とても充実した時間を過ごし、心も体も元気になった。

2分科会

一人一人の子どもの育ちと保育実践
― 絵本・物語・ぬいぐるみ等の児童文化財を通して考える ―（97名）

助言者　加藤美智子（佐野短期大学・非常勤講師）
コーディネーター　中川　文（清滝寺幼稚園・主任）

参加者の声
演じる側は楽しく!!保育を楽しんでいきたいと思った!

13分科会

気になる幼児の理解と支援（104名）

助言者　上原　芳枝（NPO法人リソースセンターONE・代表理事）
コーディネーター　斎藤　佳子（認定こども園しずわでら幼稚園・園長）

参加者の声
指導計画立案にあたっての「気になる行動」では、前後、きっかけ、表情、そして場面を絞ることがポイントだと感じた。

14分科会

遊びの中から運動を考える（0・1・2歳児編）（37名）

助言者　藤原　明美（日本遊育研究所・専任講師）
コーディネーター　今井　政範（認定こども園さくらが丘・理事長）

参加者の声
「愛情たっぷり、うきうき、笑顔、穏やかに」というテーマを忘れずに、これから心がけていきたい。

15分科会

〔公開保育〕保育の質の向上を考える
～子どもの最善の利益を保証する子どもが真ん中の保育の在り方について学び合う～（35名）

助言者　森　眞理（立教女学院短期大学・准教授）
コーディネーター　永田　文子（さくら認定こども園さくら幼稚園・園長）

参加者の声
子どもと対話する事とは、子どものそのままの姿、子どもの興味関心に寄り添い、保育者も共に考え育つことと感じた。

16分科会

免許状更新講習（57名）

助言者　畠山　大（岩手県立大学・講師）
コーディネーター　寺内　宏子（作新学院幼稚園・副園長）

17分科会

新規採用幼稚園教諭研修（247名）

講話：栃木県幼児教育センター 指導主事　前原　由紀
演習：岡村佳代子（風と緑の認定こども園）　髙田麻衣子（陽南幼稚園）
山﨑まゆみ（にのみや認定こども園）　斉藤美代子（足利めぐみ幼稚園）
大鷲　和也（呑竜幼稚園）　大出　晴美（認定こども園アルス幼稚園）
吉田　宏子（早蕨幼稚園）　池田　律子（聖母幼稚園）
沼尾　広美（聖アントニオ幼稚園）　野口　幸緒（認定こども園きつれ川幼稚園）
渡邉きよみ（第二ひかり幼稚園）

（詳細はP.7）

18分科会

認定こども園・保育とカリキュラム（40名）

助言者　古渡　一秀（認定こども園まゆみ・園長）
コーディネーター　井上　智賀（認定こども園旭幼稚園・園長）

参加者の声
他園の様子を知り、自園の保育はどうあるべきか、考え直すきっかけになった。

8分科会

幼小の連携と幼児教育のあり方（60名）

助言者　神長美津子（國學院大學・教授）
コーディネーター　五十嵐市郎（宇都宮大学教育学部附属幼稚園・副園長）

参加者の声
幼小の教育のあり方の違いを学び、就学に向けて各園がどのように取り組むか考えさせられた。

9分科会

未就園児（4号児）支援を考える（19名）

助言者　奥山千鶴子（NPO法人ぴーのぴーの・理事長／NPO法人子育てひろば全国連絡協議会・理事長）
コーディネーター　大嶋　裕（今市中央幼稚園・副園長）

参加者の声
各園で行っている未就園児教室の工夫や、その重要性を知り、更には地域支援の必要性を学ぶことが出来た。

10分科会

自ら学び、互いに学び合う職員集団を目指して（43名）

助言者　秦　賢志（認定こども園はまようちえん・理事長）
コーディネーター　山﨑　英明（釜井台幼稚園・副園長）

参加者の声
互いを尊重し、フラットな立場で対話のある働きやすい環境作りに取り組みたい。また、ファシリテーションなどの手法を園内研修や職員会議に取り入れたいと感じた。

11分科会

設置者・園長・リーダー向け講座（45名）

助言者　田澤　里喜（東一の江幼稚園・園長／玉川大学・准教授）
井口　裕子（Eリソースセンター株式会社）
コーディネーター　小林　研介（呑竜幼稚園・園長）

参加者の声
その世代や役割によって、価値観や夢なども違う中、コミュニケーションをどうとるかは重要だ。中でも園長や主任からの動き発言は重要だ。

12分科会

研修会だより

青年部研修会

期日　平成二十八年六月十日(金)
会場　ホテルニューイタヤ
参加　三十一名
演題　『保育と絵本～絵本が教えてくれること～』
講師　国立音楽大学音楽学部
　　准教授　**林　浩子**氏

ひと口メモ　本ではあるが、そこから得られるものはとても大きいものである。

例えば、ここ最近乱れがちである言葉遣い。子どもが正しい日本語を使うためには、我々保育者や保護者がそれを子どもたちに伝えていく必要がある。絵本からは、美しい日本語を使うことの心地よさ（心地よい言葉）を、身体を通して味わうことが出来る。

また、読み手である我々大人にとっても、絵本の効果は大きい。絵本を通して大人が「子どもの世界」を味わい、発見することができる。講師はそれを「子ども性」と表現したが、その子ども性に触れることにより、大人が自分自身と向き合い、振り返ることができ、新たな子どもとの関わりに繋がっていくのである。

絵本を読むということは読み手と聞き手が、同じ時間、空間、感情を共有できる場を持つということである。人と人との関わりは一方通行ではなく、双方向の関係である。「育て、育てられ」「教え、教えられ」。そんな関係を絵本を通して親子で得ることができたら、こんな素晴らしいことはないのではないか。

そして何より…。

幼少期に一緒に絵本を読んだということが、親子にとっての大切な宝物となることは間違いない。

今回の研修で絵本の奥深さを感じることが出来た。と同時に、読み手である自分自身を改めて振り返ることが出来た。

参加された先生方には、今後の保育で生かされることを期待したい。

設置者・園長研修会

期日　平成二十八年六月二十一日(火)
会場　二荒山会館（鶴の間）
参加　百八名

研修①
内容　「幼児の安全対策について」
講師　公益社団法人栃木県防犯協会
　　専務理事兼事務局長　**高橋秀夫**氏
　　栃木県警察本部生活安全企画課
　　課長補佐　**川崎　泉**氏
　　栃木県警察本部交通企画課
　　事故対策係長　**川永大輔**氏

ひと口メモ　幼稚園・保育所・こども園等に対する防犯講話・防犯訓練を行っている。幼稚園等は小学校とは違い、女性職員が多く、保護者の出入りも多いことから不審者が紛れて侵入してくる恐れがあることを認識すること。

また、不審者について教える時は「不安感を与えない」、極端に「怖がらせない」ことが重要である。尚、平成二十八年一月～三月に子どもや女性に対する「声かけ」「つきまとい」などの不審者情報は既に百三十一件寄せられておりその主な内容は次の通り。

①男につきまとわれた
②男にスマートフォンで写真を撮られた
③男に「飴をあげるからついてきな」と声をかけられた
④男に「家族になって」などと声をかけられたなど

「子どもを守るために」
①「不審者がいた」などの情報を職員間で共有する体制をつくっておく
②不法侵入された際の役割分担を決めておく
③子どもたちの避難方法を決めておく
④不法侵入者を想定した訓練をする

研修②
内容　行政説明
講師　県民生活部　人権・青少年男女参画課
　　課長補佐　**小林基予子**氏
　　保健福祉部　こども政策課
　　係長　**野中延寿**氏
　　主事　**三井恵里子**氏

ひと口メモ　①「家庭の日」について
家族の絆を深め、家庭の大切さを見直すきっかけづくりとして県では毎月第三日曜日を「家庭の日」と定めており、各園は啓発用ステッカーのスクールバス等への掲示をお願いしたい。

②重大事故の再発防止策について
(1)プール活動等を行う場合には監視体制の空白が生じないよう専ら監視を行う者と指導等を行う者を分けて配置し、その役割分担を明確にすること。
・監視者は監視に専念し監視エリア全域をくまなく監視
・動かない子ども等不自然な動きをしている子どもを規則的に目線を動かし見つける
・監視体制が十分でない場合にはプール活動の中止も選択する

(2)子どもの年齢・月齢によらず、普段食べている食材が窒息につながる可能性がある事を認識して観察すること。

③幼稚園新制度移行臨時補助金
子ども・子育て支援新制度へ移行した学校法人立の幼稚園及び幼保連携型認定こども園に対し、一、四〇〇円×園児数で補助金を支給する。ただし、対象経費は新制度への移行に伴う教育環境の設備充実に必要な経費とする。
※幼稚園等緊急環境設備事業で補助を受ける経費は除く。

第一回保育テクニカル講座

期日　平成二十八年六月二十三日(木)
会場　コンセーレ（大ホール）
内容　「子ども達に一生の宝物を」
講師　国際医療福祉大学
　　言語聴覚学科長
　　畔上恭彦氏
参加　百二十九名

ひと口メモ　言語聴覚士の畔上先生の研修は、「子ども達のすこやかな成長のためには、①早起き早

寝②朝ごはんを摂る③挨拶④読み聴かせ以上の四点が非常に重要である。」との話を中心に座学で進められ、子どもたちのすこやかな成長のために重要な前記四点を論理的・実践的に時にはユーモアを交えて熱心に展開されていた。

②の朝ごはんを摂ることの大切さと噛む回数、③の挨拶に関しては、挨拶を通して、「コミュニケーションのみならず、方言などの文化が伝承されている。」と解説され、基本的生活習慣の大事さを再認識させられた。

研修全体を通して、子どもたちのすこやかな成長のためには、前記四点が重要なことのみならず、それを実践・指導していくためには、保育者自身も前記四点を実践する必要があることを学ぶことができた大変有意義な研修となった。

第一回　保育セオリー講座

- 期日　平成二十八年七月八日
- 会場　コンセーレ
- 参加　百三十七名
- 内容　特別支援教育「子どもの発達とこころの理解」
- 講師　栃木市保健福祉部こども課　こどもサポートセンター　**佐藤 直昭** 氏

ひとロメモ　今回の講座は、栃木市のこどもサポートセンターの開設に携わり、多くの相談業務や、同センターで多様な取り組みをされている佐藤直昭氏から、日頃私たちが感じている支援児への取り組みや対応の悩みなどについて参考になる事が、身近な事例を交えた話の中から、たくさん聞くことができた。

園や家庭などで、つい問題視されてしまう子の要因は、生活習慣や家庭環境が大きく関係していることも多く、きっかけ・行動・結果など、順に要因を整えることから解決策や改善法を求めていくことが重要であること、また、落ち着きを取り戻したい時、気持ちが高ぶっている子に対し、その子自身に注意を促しがちであるが、マイナス方式で考え、その子に刺激を与えている要因を遠ざけるなどの具体的な援助法など、保育の中での関わり方を見直すとこにも気づかされた。他にも、就学までの遊びの重要性など、再確認することが多々あった。

○・一・二歳児研修

資質向上選抜養成講座Ⅻ

- 期日　平成二十八年七月九日(土)
- 会場　二荒山会館（鶴・亀の間）
- 参加　百四十名
- 内容　「○・一・二歳児の育ちの理解と指導計画」
- 講師　「子どもとことば研究会」代表　**今井 和子** 氏

◎はじめに
・自己肯定感育ちの低さ
・○・一・二歳児保育のポイント

◎本題として
・養護の大切さ＝命を守ること
・柔軟な担当制保育のすすめ
・三歳未満児の発達特徴と遊び
遊びの始まり＝自我の芽生え
＝三歳未満児のトラブル
・ごっこ遊びから構成遊びへ
・「見る」と「観る」
＝生きる力の原動力

◎三歳未満児の指導計画
考え方、計画の立て方
・個々の部分をより大切に
・月齢でかなり違う「ねらい」
・子どものねらいと保育のねらい

◎まとめ
○・一・二歳のそれぞれの子、集団の中でのそれぞれの子の動きや行動を、しっかり「観て」欲しい。研修の中で使用した映像や写真の読み取り方などもいかしてほしい。

ひとロメモ　認定こども園が増える一方で、今回は資質向上選抜養成講座もかねているということで、多くの研修参加者で埋まったこの「○・一・二歳児研修」。講師の今井先生には、小さな子たちの声なき声、成長の芽生えをどう見極めていくか、また次の成長に活かしていくか、そしてもちろん私たち保育者がどう関わっていくべきかを、映像や写真、ご自身の経験をもひも解いて力説していただいた。

指導計画についても、小さい子こそ「ねらい」をたてる道筋が大切ということを改めて考えさせられた。きっと、どの園でも今回の研修がすぐ次の日から活かされたのではないだろうか。

就職説明会

- 期日　平成二十八年七月二十四日(日)
- 会場　マロニエ・プラザ大展示場
- 参加状況
  参加園数　百四十四園
  参加者数　四百四十八名
- 参加者内訳
  県内学生　三百五十九名
  県外学生　八十六名
  一般　三名

ひとロメモ　二十回目を迎えた栃幼連主催の就職説明会が、今年もマロニエ・プラザで開催された。

昨今の幼稚園教諭や保育士の人手不足、早期離職問題を踏まえ、学生にとってより良い就職活動の場を提供できるよう『後悔のない就職活動をしていただくために』をテーマに掲げ、新たな取り決め事項を設け迎えた。

幼稚園や認定こども園において活き活きとした先生に囲まれて生活することが子ども達にとって最善の環境と言えるのではないだろうか。参加された多くの学生が、自分に合った、自分を発揮できる園に出会い、子ども達の豊かな未来の礎を構築するため、協働する日を楽しみにしている。

スクールバス安全運転研修会

期日　平成二十八年七月二十八日（木）
会場　二荒山会館（鶴・亀の間）
講師　宇都宮中央警察署　交通総務課
巡査　**髙村 和佳代** 氏
栃木交通バス㈱　運行部
運行部長　**石塚 隆英** 氏

ひとこメモ　幼稚園バスには、車体に隠れている場所等の、運転席から見えない場所がある。

ドライバーは、右左折や進路変更の際には、ミラーだけでなく、必ず目視をする。

しばらく経験を積むと、自分の技術や知識を過信して逆に安全意識が低下してしまう傾向がある。命に関わる大きな事故を防ぐためにも、慣れたときが一番危険であることを、前もって考慮に入れておく。

幼稚園バスによる重大事故は、なぜ起こるのか。まずは子どもの特性を知ることが大切。

・じっとしていない・落ち着きがない・興味があることに夢中になる。これらの特性を知ることで重大事故を防ぐ要因になる。

プロドライバーとしての心構え

①幼稚園の1日は朝のバスから始まる。保護者、園児に親しみやすく好印象を与えることが必要。

②あいさつ・身だしなみ・言葉遣いに気を付ける。

保護者からの安心安全評価は園への信頼に繋がる。運転手に求められる責任は重い。

そのためプロドライバーとしての誇りと自覚を持ち、毎日の運転を振り返り、日々の反省を繰り返すことが大切である。

第三十一回　全日本私立幼稚園関東地区教員研修埼玉大会

期日　平成二十八年八月二十三日・二十四日
会場　大宮ソニックシティ他

ひとこメモ　関東地区教員研修大会が開催され、大宮ソニックシティをメイン会場として二千三百名を超える教員が集まった。

一日目の開会式の後は、順天堂大学医学部附属順天堂医院院長の天野篤先生の「負けず嫌いのお節介から心臓外科医へ」と題した記念講演、続いて和田タカ子氏（オペラ彩総合プロデューサー）再現のオペラ『泣いた赤鬼』のアトラクションが行われた。

二日目は、二十のフォーラムに分かれて研修が実施された。第八フォーラム「幼小の連携と幼稚園教育の在り方」を栃木県の先生方が担当した。

新規採用幼稚園教諭宿泊研修報告

晃望台幼稚園　**青柳 貴也**

八月十七日（水）～十九日（金）、栃木県立とちぎ海浜自然の家にて、県内新規採用幼稚園教諭宿泊研修が行われた。

今年も、「保育者にふさわしい、①明朗できまりよく行動する生活体験、②豊かな自然体験、③積極的に社会人としての体験等を積むとともに、学校教育としての幼児教育及び保育の理解を深める。」を目的とし、栃木県幼稚園連合会青年部委員が実行委員となり三日間を通して様々な内容の研修を行った。

初日は、生活や活動、研修がスムーズに進むようグループワークトレーニングでアイスブレイクを行い、各グループの関係性を深め個人の役割を明確にした。

二日目は、全体活動で保護者対応や社会人としてのマナー、電話対応等を実際の事例に合わせて学び、新人でも他者から見ればその園の一員、自分の行動が園の評判になる、一人一人が園の名前を背負っているという自覚を再認識させるとともに、自信をもって働けるよう学びを深めた。

選択活動では、即実践で使える歌や制作、室内外での遊びやそれに伴う危険等、各自興味のある活動に分かれ午前、午後としっかり活動し、夕食後は両日とも任意活動に希望で参加し、リラックスしながら新たなスキルを習得するとともに、実行委員に悩み相談などをして気分転換が出来る時間を過ごした。

また、決められた活動時間以外を有効に使い、最終日に発表する手あそびを考え作り上げることで、交流や話し合いが進み、協力や思いやりの気持ちが育つ機会となっていた。

宿泊研修で学べることはとても多く、研修生、実行委員共に、貴重で充実した三日間になっただろう。

幼児教育センターだより

新規採用幼稚園教諭研修　第三日（幼稚園教育研究大会第18分科会）

長い梅雨が明け、夏らしい青空の下、七月二十九日に、新規採用幼稚園教諭研修第三日を開催しました。

はじめに、県教育委員会総務課人権教育室の青柳恵美指導主事より「一人一人を大切にする教育」を題に人権講話がありました。共感的態度で真摯に「聴く」ことの大切さ、話し言葉として配慮すべき表現など、日頃の幼児との関わり方をチェックする良い機会となりました。

続いて、センター指導主事より「幼児理解から始まる保育」をテーマに講話及び映像資料を用いた演習を行いました。

午後は、十一班に分かれて、各地区から推薦された指導助言者による演習を行いました。午前中の保育の映像視聴を基に、視線や表情に表れる幼児の思いの読み取りや、幼児理解において大切にしなければならないことについて協議しました。最後に、指導助言の先生から、本研修の目標を踏まえ、多様な助言をいただきました。

受講者からは、「『幼児を肯定的に見ること』『幼児に寄り添って遊ぶこと』『長い目で見ること』というポイントを胸に刻んだ」「その場限りの解決ではなく、どんな思いでその行動をとったのか十分に考えたい」など、慌ただしく緊張感ある毎日ではあるが、一番大切にすべきは、「幼児理解」だと、気持ちを新たにする声が多く聞かれました。

教育課程研究集会（幼児教育）第一日

六月八日に教育課程研究集会（幼児教育）の第一日を開催しました。この研修は、「幼稚園教育理解推進事業」（文部科学省主催）の都道府県協議会に該当するもので、幼児期の学校教育の質の保証を目的としたものです。文部科学省から示された協議主題は、昨年度に引き続き「カリキュラム・マネジメント」と「特別支援教育」です。

午前中に、千葉大学教育学部准教授の砂上史子先生より、協議主題の解説がありました。次期教育要領の改訂を見据えて、カリキュラム・マネジメントの重要性や方法、幼児期の特別支援教育の考え方や実践事例などを「つながり」というキーワードを使って、分かりやすく説明していただきました。

午後は、協議主題ごとの分科会で、グループ協議を通して、さらに主題の理解を深めました。一人一人が自分の園の現状や課題を振り返り、研究の方向性を決めました。受講者からは「つながることを意識して教育課程を見直したい」「特別支援教育について、自園の新たな課題が見えた」などの感想が寄せられています。

第二日の九月二十日には、それぞれの研究を持ち寄り、さらに協議主題に迫ります。

園内研修、支援します♡

当センターでは、教育・保育アドバイザー事業の一環として、幼稚園やこども園等における園内研修を支援する「園内研修サポートプログラム」を始めました。

小グループで話し合うワークショップ型保育研究の手法を使って、自分たちの保育の良さや課題に気付き、自ら解決策を検討・実践して聞くことができるよう、年間三回ほど訪問し、継続して支援するものです。

テーマはもちろん、開始時刻や所要時間等、各園が効果的に取り組めるよう相談に応じます。

今年度の実施例を紹介します。

①主体性・創造性を育てる保育
認定こども園さくらが丘幼稚園
②非認知的能力の育成
認定こども園仁神堂幼稚園

まずは、お電話ください。
☎028（665）7215

これからの研修

●スキルアップセミナーⅠ（明日の保育が変わる記録の在り方）

十月十八日（火）
講話「専門性を高めるための記録の在り方」
文京区立第一幼稚園
園長　桶田　ゆかり　先生
講話・演習「記録の取り方と生かし方」

●トップセミナー

十一月十日（木）
講話「学力向上を支える幼児教育と生活科・総合的な学習の時間」
上智大学総合人間科学部教育学科
教授　奈須　正裕　先生

●合同研修（幼小）

十一月十五日（火）・二十二日（火）・二十四日（木）・二十九日（火）
講話「幼児期から児童期へのカリキュラムの接続」
協議「ジョイントカリキュラムを作ろう」

★幼児教育センター研修案内よりお申し込みください！

こども政策課だより

平成二十八年度幼稚園財務関係調査及び幼保連携型認定こども園指導監査の実施について

七月から十一月までの間、標記調査等を幼稚園・幼保連携型認定こども園を対象に実施しています。調査内容は、次のとおりです。

・学校法人の管理運営状況
・幼稚園・認定こども園の管理運営状況
・会計処理状況　等

実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園・認定こども園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いします。

また、今年度調査対象外の幼稚園・認定こども園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いします。

なお、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出願います。

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書
・提出期限　十月下旬（予定）
・平成二十八年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月中旬を予定しています。

交付申請書の提出に当たっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書
・提出期限　十月下旬（予定）

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

一　特別支援教育
・提出書類
ア　対象園児就園状況調書
イ　対象園児担当・指導教職員に関する調書
ウ　対象園児である旨の判定調書
・提出期限　十月二十一日（金）
※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

二　子育てランド事業
・提出書類
ア　子育てランド事業実施計画書
イ　各事業における保護者等への案内通知（写）
・提出期限　十一月上旬（予定）

三　わんぱく保育推進事業
・提出書類
ア　わんぱく保育推進事業実施計画書
イ　預かり保育実施記録
ウ　保護者等への案内通知（写）
・提出期限　十一月中旬（予定）
※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十八年十月～十二月までの事業予定

10月15日～29日	第23回　ピカピカの栃木県
10月18日	※スキルアップセミナー
10月19日	資質向上選抜養成講座Ⅷ
10月20日	リーダー研修（旧：教頭主任講座）
10月21日	幼稚園教育振興の集い（栃木市）
10月25日	※5年目研修
10月27日	保育セオリー講座
11月1日	地方行政と現場との関係作り研修会
11月7日	保育テクニカル講座
11月8日	※幼児期の特別支援教育研修
11月10日	※トップセミナー
11月10日～11日	全日私幼連　関東地区代表者協議会（山梨）
11月11日	※10年経験者研修
11月11日	第44回栃木県放送・視聴覚教育研究大会　芳賀地区大会
11月12日	とちぎ教育振興大会
11月15日	※合同研修（幼・小）
11月16日	設置者・園長研修会
11月17日	0・1・2歳児研修
11月22日	※合同研修（幼・小）
11月24日	※合同研修（幼・小）
11月28日	※5年目研修
11月29日	※合同研修（幼・小）
11月30日	資質向上選抜養成講座Ⅻ
12月21日	保育セオリー講座
12月26日	新規採用幼稚園教諭研修（集合研修）

※は幼児教育センター事業

編集後記

「今年の夏も暑かった！」「思いのほか短い夏だったな」という思いの方も多いのではないだろうか。

オリンピックの日本人の活躍に眠れない日を過ごす一方で、昼間は高校野球に釘付け！という人々、いやいや私は仕事ですからと、ニュースの時間だけ集中した人と、空から見たら、きっと面白い風景が見られたはずである。子どもたちにも少なからず影響があり、時に寝不足？と思われる子もいたような気もする。

折角の機会として、「素敵な選手たちがもらった金メダル」への子どもたちの想いを、自分たちの表現の場である運動会に、つなぎたいと思ったのはわたしだけだろうか。

一方で、今年の夏は日本列島に沿って動く台風が多すぎて、各地での災害報告に気をもむ日も多かった。

これからも、台風の季節が続くため、呑気に構えてもいられない。

では、どうすればよいのかと考えた時に思い出されたのが、過日行われた、幼稚園教育研究大会のテーマ「人生のスタートにこそ良質の教育を」である。

目の前にいる、その子にあった保育を、また、集団だからこそできる良質の保育を目指すことを根本におけば、やるべきことの道筋が立ってくるような気がする。

さあ、身を引き締めて頑張ろう！

（田﨑　容子）